

— ◆ 名 誉 会 員 の 紹 介 ◆ —

去る5月18日に開催された第19回通常総会において、北川敏男君は多年国内あるいは国際的に情報処理の学術研究の分野において顕著な業績を挙げ、また昭和35年4月に本会評議員として創立に参加し、昭和42年5月に理事に選任され、さらに昭和50年5月より52年5月まで第8代会長に就任するなど、本学会の事業運営に特別の功績があったので、定款第6条によって名誉会員に推薦されました。ここに北川敏男君の経歴を紹介します。



北川敏男君

北川敏男君は明治42年北海道に生まれた。

昭和9年東京大学理学部数学科を卒業、直ちに大阪大学理学部に奉職し、昭和13年同大学工学部講師を経て、昭和14年九州大学の理学部数学科の創設にあたり、助教授を拜命、昭和18年同大学教授に昇進して、統計数学講座を担当した。その間、昭和15年「線型移動可能関数方程式とコーシー級数の理論」の研究により、東京大学より理学博士の学位をうけた。九州大学においては、評議員、大学図書館長、理学部長などの要職を歴任した。研究分野は、解析学、確率論からの統計学へ進み、推測統計学のわが国における開拓に努力し、推測過程論及び管理過程論を展開し、わが国の標本調査、品質管理の向上に寄与した。昭和31年国際統計協会正会員に推挙され、昭和28年品質管理に関するデミング賞を受賞した。インドの経済開発計画に関する国民標本調査再検討委員として活躍し、統計学における功績により、カルカッタ大学百年祭に

あたり、歴史学のトインビー博士、物理学のオペンハイマー教授とともに、名誉博士(理学)の栄をうけた。

ついで、昭和30年代後半に入ってより、計画数学を担当し、また情報科学のわが国における振興のため、九州大学はじめ全国の諸大学の有志の結集をはかり、昭和41年情報科学講座、情報社会科学講座の編集にあたり、今日に至っている。この間、昭和30年より五期にわたり日本学術会議会員に選出され、長期研究計画委員会幹事として在任12年、科学研究計画、情報科学計画、全国共同利用大型計算機センター設置、大学図書館の近代化などに関する諸施策の立案・実現に努力した。

また、内外の学術誌 Bulletin of Mathematical Statistics (日)、Mathematical Biosciences (米)、Information Science (米)の編集にあたり、統計科学研究会委員長、日本OR学会フェロー、米国数理統計学会フェロー、インド統計研究所、プリンストン大学、アイオワ大学、西オーストラリア大学の客員教授あるいは研究員として、国際学術交流に貢献した。

昭和48年定年退官後、直ちに富士通(株)に創立された国際情報社会科学研究所所長に就任し、その発展に挺身するとともに、文部省特定研究「学術情報」に参画し、情報論理、学術情報システムの形成などの研究に従事して今日に至っている。

九州大学名誉教授、昭和49年紫授褒章をうける。